



筑波大学

令和2-3年度 概要



IMAGINE THE

ブランド・アイデンティティ

筑波大学は未来を構想し、その実現に挑むフロントランナーです。

ブランド・コンセプト

筑波大学は開かれた大学、学際融合・国際化への挑戦を建学の理念とする、未来構想大学と自らを位置づけます。文系・理系から体育、芸術に及ぶ学問を探究し、グローバル・リーダーの育成を目指す、真の意味での総合大学=Universityです。最先端研究拠点TSUKUBAの中核として、人類が共存共栄する世界の実現に向かって行動します。

ブランドスローガン

欧文

和文

IMAGINE THE FUTURE.

開かれた未来へ。

開学からの理念である開かれた大学として、教育、研究をはじめあらゆる面で想像して未来を開く視点から、筑波らしさをIMAGINE THE FUTURE. と表現しました。

スローガンの色は準スクールカラーのつくばブルー／FUTURE BLUEです。



FUTURE.

建学の理念／校章／沿革 4

研究 6

教育 8

総合学域群 9

学群・学類 10

大学院(学術院・研究群) 12

グローバル教育院 13

寄附講座・寄附研究部門 14

特色ある学生支援 15

起業家育成とベンチャー支援 15

国際交流 16

研究組織・センター等 18

附属学校 19

附属図書館・附属病院 20

本学の特色 21

建物配置図 22

〈嘉納治五郎〉

講道館柔道の創設者として高名な嘉納治五郎(1860-1938)は、本学のルーツとなる東京高等師範学校の校長を23年にわたって務めました。

建学の理念／校章／沿革

建学の理念

筑波大学は、基礎及び応用諸科学について、国内外の教育・研究機関及び社会との自由、かつ、緊密なる交流関係を深め、学際的な協力の実をあげながら、教育・研究を行い、もって創造的な知性と豊かな人間性を備えた人材を育成するとともに、学術文化の進展に寄与することを目的とする。

従来の大学は、ややもすれば狭い専門領域に閉じこもり、教育・研究の両面にわたって停滞し、固定化を招き、現実の社会からも遊離しがちであった。本学は、この点を反省し、あらゆる意味において、国内的にも国際的にも開かれた大学であることをその基本的性格とする。

そのために本学は、変動する現代社会に不断に対応しつつ、国際性豊かにして、かつ、多様性と柔軟性を持った新しい教育・研究の機能及び運営の組織を開発する。更に、これらの諸活動を実施する責任ある管理体制を確立する。

校章



筑波大学の校章「五三の桐葉型」は明治36(1903)年に改定された東京高等師範学校生徒徽章に始まり、昭和24(1949)年製作の東京教育大学学生バッジにも受け継がれました。昭和49(1974)年本学評議会において「紋章については東京教育大学の伝統を引き継ぎ」桐の葉とすることが了承されました。

「五三の桐」と呼ばれる図形には、我が国の伝統的な紋章一般がそうであるように多くのヴァリエーションがありますが、本学の校章は花の部分のみ「蔭」(アウトライン)で表される独特のものです。

校章は、スクールカラーの「つくば紫」を使用しています。

沿革

筑波大学は、東京教育大学の移転を契機に、そのよき伝統と特色を生かしながらも、大学に対する内外からのいろいろな要請にこたえるため、わが国ではじめて抜本的な大学改革を行い、昭和48(1973)年10月に「開かれた大学」「教育と研究の新しい仕組み」「新しい大学自治」を特色とした総合大学として発足しました。本学は大学改革の先導的役割を果たしつつ、教育研究の高度化、大学の個性化、大学運営の活性化など、活力に富み、国際競争力のある大学づくりを推進しています。

年表

- (1949年 国立学校設置法により東京教育大学設置)
- 1970年 筑波研究学園都市建設法成立
- 1972年 筑波研究学園都市に新設移転する研究教育機関として、筑波新大学(仮称)等42機関を閣議決定
- 1973年 国立学校設置法等の一部を改正する法律(昭和48年法律第103号)により筑波大学を設置
三輪知雄、学長に就任
附属図書館を設置
- 1976年 宮島龍興、学長に就任
附属病院を設置
- (1978年 東京教育大学閉学)
- 1980年 福田信之、学長に就任
- 1986年 阿南功一、学長に就任
- 1992年 江崎玲於奈、学長に就任
- 1998年 北原保雄、学長に就任
- 2000年 大学院博士課程の改組・再編により、数理物質科学研究科、システム情報工学研究科及び生命環境科学研究科を設置
- 2001年 大学院博士課程の改組・再編により、人文社会科学研究科、ビジネス科学研究科及び人間総合科学研究科を設置
- 2002年 国立学校設置法の一部を改正する法律(平成14年法律第23号)により図書館情報大学と統合
- 2004年 国立大学法人法(平成15年法律第112号)により国立大学法人筑波大学を設置
岩崎洋一、学長に就任
- 2007年 学群の改組・再編により、人文・文化学群、社会・国際学群、人間学群、生命環境学群、理工学群、情報学群及び医学群を設置
- 2009年 山田信博、学長に就任
- 2011年 新たな教員組織「系」を設置
- 2013年 永田恭介、学長に就任
- 2018年 研究センター等再編を実施
- 2020年 総合学域群を設置
大学院研究科の改組・再編により、人文社会ビジネス科学学術院、理工情報生命学術院、人間総合科学学術院を設置し、学位プログラム制に移行



未来に羽ばたく次世代研究者

発生生物学



島田 裕子 生存ダイナミクス研究センター 助教

成長と成熟を司る神経内分泌機構の探究

ヒトの「思春期」に代表されるように、多くの生物の発生過程には、こども(幼若期)からおとな(成体期)へと移行する「変遷ステップ」があります。このステップには、成長(身長や体重の変化)と、成熟(生殖機能の発達)の2つの側面があり、両者のバランスはステロイドホルモンによって調節されています。ステロイドホルモンは、個体内外のさまざまな環境に応じて適切なタイミングで生合成されますが、

その生合成経路を調節する神経内分泌機構には不明な点が未だ多く残されています。その解明に向け、モデル生物のキショウジョウバエを主材料として、様々な遺伝子の機能解析を行っています。これらの研究から、昆虫から脊椎動物まで広く保存されたタンパク質ファミリー分子が担う、成長から成熟への変遷システムが明らかになりつつあります。

知能情報学



堀江 和正 計算科学研究センター 助教

深層学習・信号処理技術で低コストの睡眠医療を実現

自身の睡眠に不満を持っていませんか？現在、日本の成人の約4割は満足できる睡眠をとれていないと言われています。日々を健康的に過ごすためにも、自分の睡眠状態・質を把握するのは非常に重要です。そのためには、一般に、「睡眠ステージ判定」という検査が行われます。しかし、この検査では、睡眠時の脳波や筋電位を元に睡眠状態を30秒単位で判定する必要があり、非常に多くの時間と

労力を費やしていました。そこで、国際統合睡眠医科学研究機構と協力し、医師や技師に代わって睡眠状態を自動判定するシステムの開発に取り組んでいます。高い認識・判断能力を持つ深層ニューラルネットに、医師や技師の専門的な知見を反映させることで、高精度な睡眠状態判定を実現しました。他にも、生体信号処理や臨床試験の自動化など、医学と情報学をつなぐ研究をしています。

都市社会学／地域社会学



五十嵐 泰正 人文社会系 准教授

社会学の視点と調査で、地域課題の協働的な解決を目指す

世界的にみても稀有なレベルで、狭い範囲に歴史的・文化的資源と多様な人々の営みが集積している東京の上野地区で、20年にわたって店主の意識調査などを行ってきました。近年では台東区やまちづくり協議会のアドバイザーなどとして、都市の実践的な課題に取り組んでいます。また、住んでいる千葉県柏市ではいくつかの市民活動に携わっており、福島第一原発事故後に同市周辺が放射能の

ホットスポットになった際には、消費者と生産者や流通・飲食業の人たちが協働し、地元野菜の放射能測定と情報発信を行い、地域農業の問題に取り組む円卓会議を立ち上げました。それをきっかけとして、主に福島県の農漁業の復興の観点から、「風評」被害を引き起こす市場構造や消費者意識、望ましいリスクコミュニケーションの在り方を学際的に研究しています。

本学は、広範な学問分野にわたって高度で先進的な研究力を有する研究型総合大学です。各分野における専門性を追求す

ると同時に、学際的な連携・協力を積極的に推進し、卓越した教育研究を展開し、社会に貢献することを目指しています。

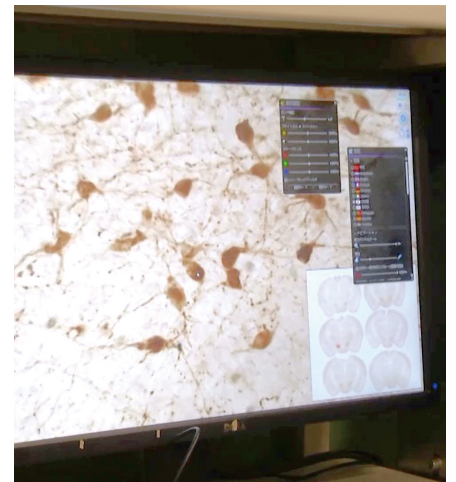
世界を変える最先端研究

国際統合睡眠医科学研究機構

現代神経科学最大のミステリー、睡眠覚醒機構の解明を目指し
基礎から臨床までを網羅する世界随一の研究拠点

誰もが人生の三分の一近くを費やす睡眠。それにもかかわらず、眠りの正体は謎に包まれています。本機構の柳沢正史機構長らは、睡眠と覚醒の制御において重要な役割を果たす新規神経ペプチド「オレキシン」を発見し、その働きを世界に先駆けて示すとともに、睡眠学・代謝学の新たな研究領域を切り拓いてきました。しかし、睡眠覚醒調節の根本的な原

理や、そもそも「眠気」の神経科学的な実体は一体何なのか、未だに明らかになっていない命題が数多く残されています。こうした神経科学最大の難問に挑むべく、トップクラスの研究者たちが一丸となって革新的な研究を行っています。

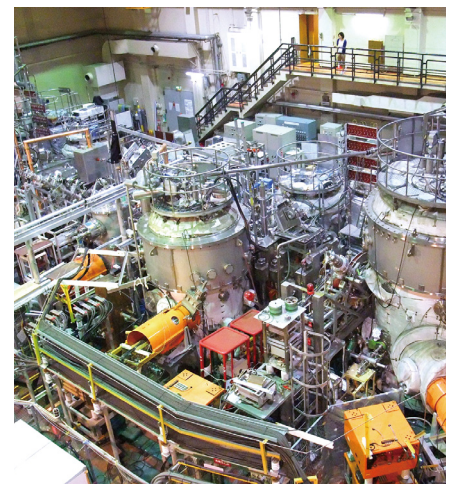


プラズマ研究センター

世界最大のミラー型装置 GAMMA 10/PDX を用いて
「地上の太陽」の実現を目指すプラズマ研究拠点

エネルギー問題と地球温暖化の解決に貢献することを基本理念とし、世界最大のタンデムミラー型プラズマ閉じ込め装置 GAMMA10/PDX を用いたプラズマ核融合に関する研究を推進しています。核融合炉実現における最大の課題の一つである「1 億度の核融合プラズマ・コアとそれを取り囲む常温壁の両立」に取り組み、コアと壁の間に位置する境界プラズマの

制御研究と、大電力ミリ波帯マイクロ波発振管（ジャイロトロン）の開発において、世界をリードしています。さらに、超伝導ミラー型装置を建設し、原型炉開発に資する研究を進めるなど、「地上の太陽」の実現に向けた挑戦を続けています。

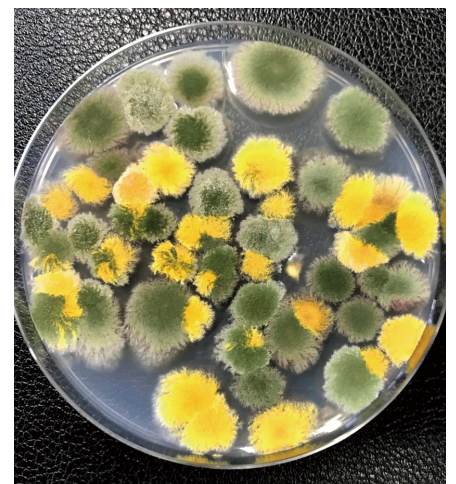


微生物サステナビリティ研究センター

目に見えない微生物の力を活用して持続可能な社会を目指す
国内最大級の分野横断型微生物研究拠点

普段我々の目に触れることがない「微生物」を研究し、その知見を、持続的な発展を可能とする社会の構築に役立てることを目指しています。微生物の種、役割、生き様を知ることで、新たなバイオテクノロジーが生み出され、環境中の微生物を自在に制御できるようになります。そのため、様々な性質を持つ新種の微生物の探索、独自の顕微鏡技術によって微

生物同士の会話を聞く方法の開発、医薬やバイオマス材料の発酵生産、病原菌やウイルスを防ぐ新たな技術の研究などに取り組んでいます。人や動植物と深く関わる微生物の研究は、環境、食、健康、文化に関わる広範な課題の解決に貢献しています。

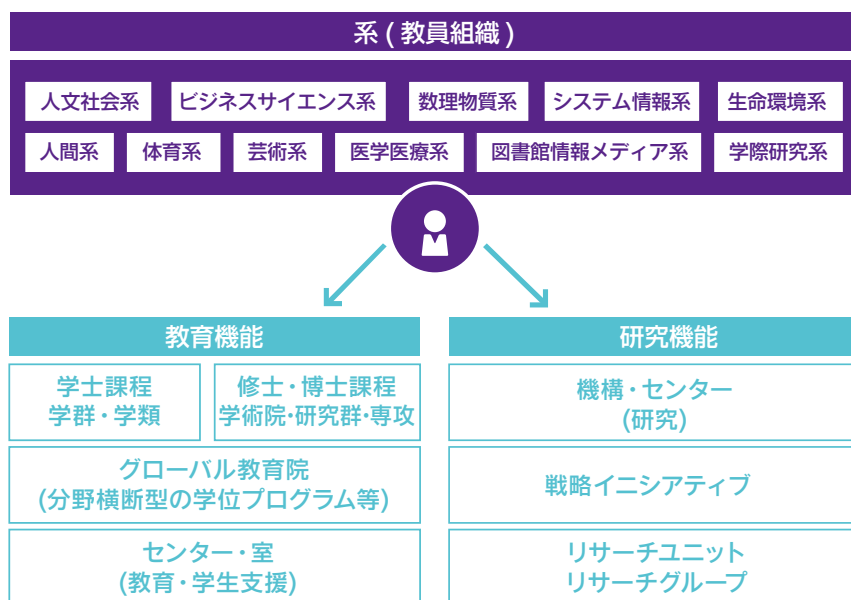


学際融合・領域横断的な教育システム

教員は「系」に所属し、基盤的な研究を行いつつ、学群・学類、学術院・研究群・専攻、センター等、それぞれの教育研究組織の目的に即した教育研究を担います。教員の所属組織を個々の教育研究組織から独立させることにより、異なる分野の教員が参画する学際融合・領域横断的な教育研究や新たな教育研究プログラムの創出を柔軟に行うことができます。

本学独自の教員組織「系」

多様化・高度化する教育研究のニーズに的確に対応していくためには、各教育研究組織が、固定的・閉鎖的になることなく、学問の進展や社会の要請に応じて、新たな教育研究プログラムの創出や組織の改組再編を柔軟に展開していかなければなりません。本学では、教員の所属組織と個々の教育研究組織の編成の在り方を区別した新たな教育研究体制として、独自の教員組織「系」を設置しています。



本学は医学・体育・芸術分野も網羅する総合大学であることを生かし、学群・学類間の壁を低くして、専門分野以外にも幅広い教養を身に付けることができる教育システムを構築しています。

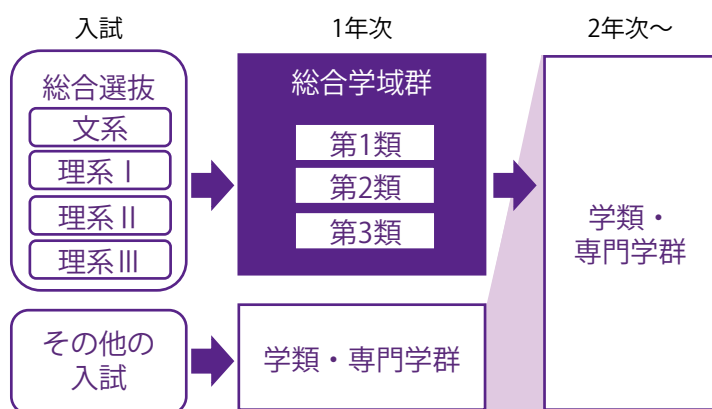
総合学域群

総合学域群は、令和3年4月から学生を受け入れます。総合選抜で入学した学生は1年次は総合学域群に在籍し、1年間の学びの後、所属する学類・専門学群が決まります。

総合学域群の組織・特色

総合学域群は、文系・理系別の3つの「類」(第1類、第2類、第3類)から構成され、各類に約20名ごとのクラスがあります。総合学域群の学生はこの類・クラスに所属します。複数の専門領域の学修を通じて広い視野から問題を多角的に捉える基礎的な力を身に付けられることや、さまざまな問題意識や将来の夢をもつ仲間と互いに影響を与え合いながら自身の学びを深め、進路選択ができることが総合学域群の魅力です。

総合学域群の学生は、1年間の学びを通して、学問的な俯瞰をしながら専門分野を定め、自らのキャリアを主体的に選択する力を養います。



※総合学域群の移行先に体育専門学群は含まれません。

サポート体制

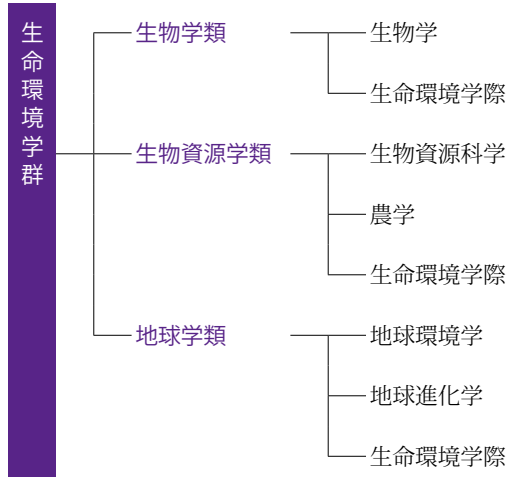
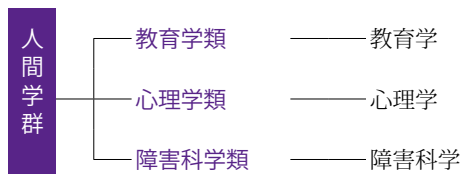
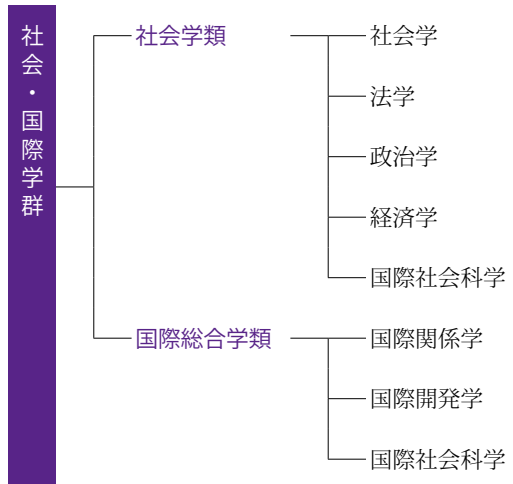
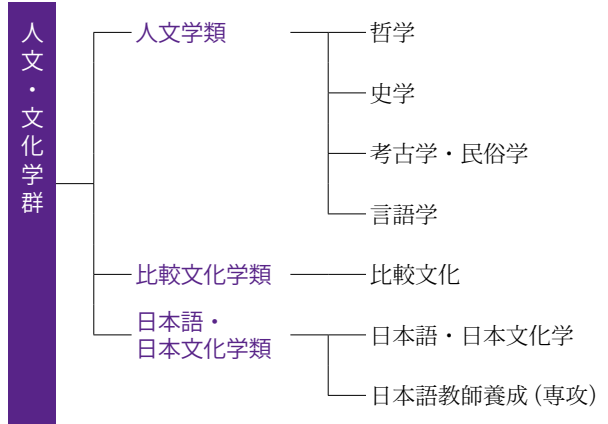
総合学域群の学生をサポートするアカデミックサポートセンターを設置しています。クラス担任だけでなく、専門スタッフやアカデミックアドバイザーの教員が、学生一人ひとりの履修計画や進路選択を丁寧にサポートします。

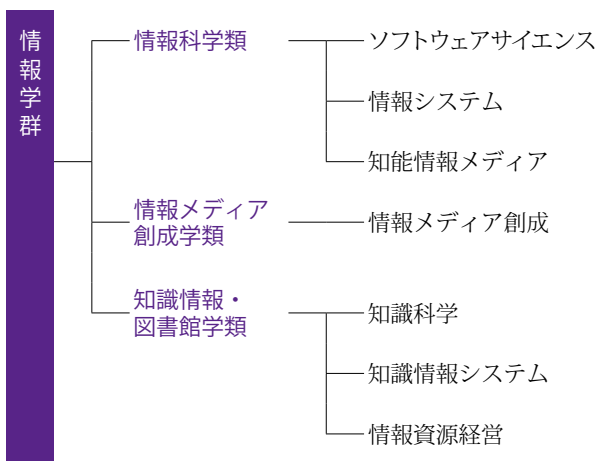
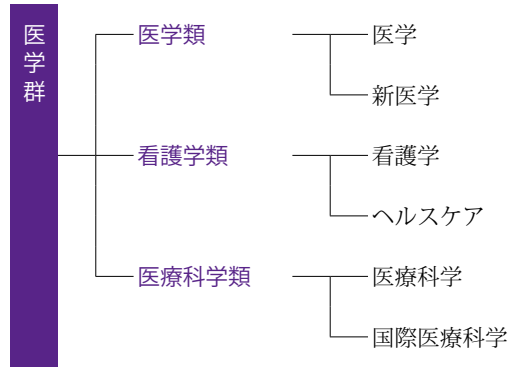
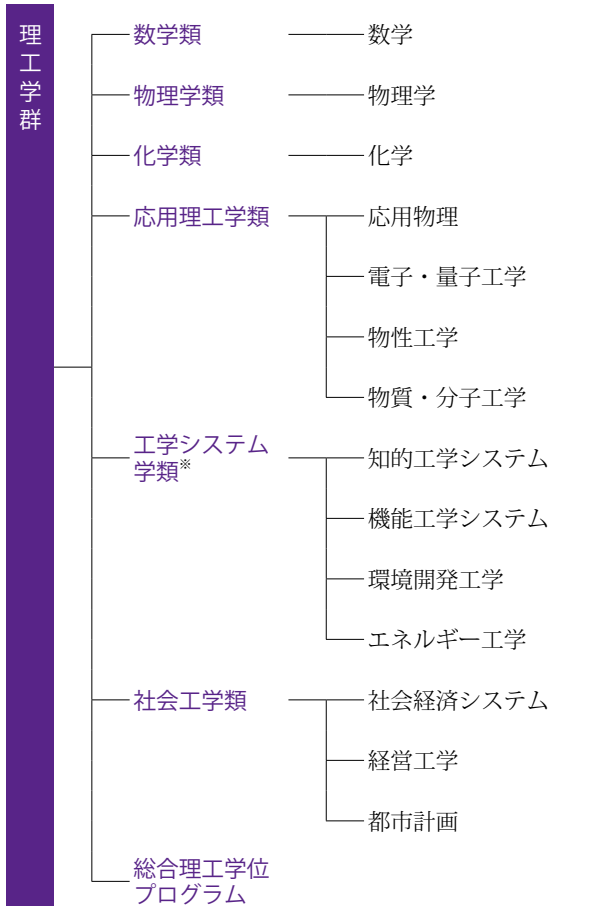


学群・学類

学群とは、他大学における学部段階の学生に教育を行う組織です。学群は、専門領域を中心としていくつかの学問分野を総合した形で構成されています。また、専門的な能力を必要とする分野(体育・芸術)には、それに特化した一貫教育を行う専門学群が置かれています。

学類とは、学群に置かれ、学生の教育に責任を持つ組織です。学生は、学類に所属することになります。





※工学システム学類は、令和3年度入学者から2主専攻体制(知的・機能工学システム主専攻、エネルギー・メカニクス主専攻)に変更する。

大学院 (学術院・研究群)

学術院・研究群は、大学院の課程の教育を担います。学術院は、学生が高度な専門性と豊かな学識を修得することができるよう、広範な学問分野を包含した編成となっています。研究群には学位プログラムを置き、多様な分野の教員が協働して授業と研究指導を行います。

また、早期修了制度や長期履修制度、社会人のための夜間大学院や昼夜開講制、研究機関等との連携による連携大学院・協働大学院方式等を積極的に進め、教育内容・方法の高度化・多様化を図っています。



人文社会ビジネス科学学術院

人文社会科学研究群

| | | |
|---------------|---|---|
| 人文学学位プログラム | M | D |
| 国際公共政策学位プログラム | M | D |
| 国際日本研究学位プログラム | M | D |

ビジネス科学研究群

| | | |
|------------|---|---|
| 法学学位プログラム | M | D |
| 経営学学位プログラム | M | D |

<専門職学位課程>

| | |
|-----------------|---|
| 法曹専攻(法科大学院) | P |
| 国際経営プロフェッショナル専攻 | P |

理工情報生命学術院

数理物質科学研究群

| | | |
|------------------------|---|---|
| 数学学位プログラム | M | D |
| 物理学学位プログラム | M | D |
| 化学学位プログラム | M | D |
| 応用理工学学位プログラム | M | D |
| 国際マテリアルズイノベーション学位プログラム | M | D |

システム情報工学研究群

| | | |
|-------------------------|---|----|
| 社会工学学位プログラム | M | D |
| サービス工学学位プログラム | M | |
| リスク・レジリエンス工学学位プログラム | M | D |
| 情報理工学位プログラム | M | D |
| 知能機能システム学位プログラム | M | D |
| 構造エネルギー工学学位プログラム | M | D |
| エンパワーメント情報学プログラム | | 5D |
| ライフイノベーション(生物情報)学位プログラム | M | D |

生命地球科学研究群

| | | |
|-------------------------|---|---|
| 生物学学位プログラム | M | D |
| 生物資源科学学位プログラム | M | |
| 農学学位プログラム | | D |
| 生命農学学位プログラム | | D |
| 生命産業科学学位プログラム | | D |
| 地球科学学位プログラム | M | D |
| 環境科学学位プログラム | M | |
| 環境学学位プログラム | | D |
| 山岳科学学位プログラム | M | |
| ライフイノベーション(食料革新)学位プログラム | M | D |

| | | |
|---------------------------|---|---|
| ライフイノベーション(環境制御)学位プログラム | M | D |
| ライフイノベーション(生体分子材料)学位プログラム | M | D |

<外国の大学との国際連携教育課程>

| | |
|--------------|---|
| 国際連携持続環境科学専攻 | M |
|--------------|---|

人間総合科学学術院

人間総合科学研究群

| | | |
|---------------------|---|----|
| 教育学学位プログラム | M | D |
| 心理学学位プログラム | M | D |
| 障害科学学位プログラム | M | D |
| カウンセリング学位プログラム | M | |
| カウンセリング科学学位プログラム | | D |
| リハビリテーション科学学位プログラム | M | D |
| ニューロサイエンス学位プログラム | M | D |
| 医学学位プログラム | | 4D |
| 看護科学学位プログラム | M | D |
| フロンティア医科学学位プログラム | M | |
| 公衆衛生学学位プログラム | M | |
| ヒューマン・ケア科学学位プログラム | | D |
| パブリックヘルス学位プログラム | | D |
| スポーツ医学学位プログラム | | D |
| 体育学学位プログラム | M | |
| スポーツ・オリンピック学学位プログラム | M | |
| 体育科学学位プログラム | | D |
| コーチング学学位プログラム | | D |
| スポーツウエルネス学学位プログラム | M | D |

| | | |
|-------------------------|---|----|
| 芸術学学位プログラム | M | D |
| デザイン学学位プログラム | M | D |
| 世界遺産学学位プログラム | M | D |
| 情報学学位プログラム | M | D |
| ヒューマンバイオロジー学位プログラム | | 5D |
| ライフイノベーション(病態機構)学位プログラム | M | D |
| ライフイノベーション(創薬開発)学位プログラム | M | D |

<他大学との共同教育課程>

| | |
|-----------------|---|
| スポーツ国際開発学共同専攻 | M |
| 大学体育スポーツ高度化共同専攻 | D |

<外国の大学との国際連携教育課程>

| | |
|--------------|---|
| 国際連携食料健康科学専攻 | M |
|--------------|---|

【凡例】

- M** : 修士課程又は博士前期課程
- D** : 博士後期課程又は3年制博士課程
- 5D** : 5年一貫制博士課程
- 4D** : 医学を履修する博士課程(4年制)
- P** : 専門職学位課程

※専門職学位課程、他大学との共同教育課程、外国の大学との国際連携教育課程については、専攻として学術院の下に設置しています。

グローバル教育院

分野を横断する学位プログラム等の実施・運営を行うため、グローバル教育院を設置し、「卓越大学院プログラム」に採択された学位プログラムなど、先導的な分野横断型学位プログラムの運営を行っています。

これまでに、学士課程1プログラム、大学院課程4プログラムを開設し、このうち優れた実績を上げ定着した大学院課程の3プログラムは、令和2年度の大学院の改組再編を機に、学術院・研究群の学位プログラムに再編成されました。

グローバル教育院(学士課程)

地球規模課題学位プログラム(学士)

グローバル教育院(大学院課程)

ヒューマニクス学位プログラム(5年一貫制博士課程)
(卓越大学院プログラム)

寄附講座・ 寄附研究部門

産学連携を推進するとともに、大学における教育研究を充実させ、活性化を図るため、企業等からの寄附を活用した、「寄附講座」もしくは「寄附研究部門」を設置しています。

寄附講座 (令和2年5月1日現在)

JA茨城県厚生連寄附講座

臨床研究地域イノベーション学講座 人間総合科学研究群

寄附者 | 茨城県厚生農業協同組合連合会

茨城県寄附講座 地域医療教育学 人間総合科学研究群

寄附者 | 茨城県

社会連携講座

地域医療・先端医工連携講座 人間総合科学研究群

寄附者 | (株) 日立製作所

循環器不整脈学寄附講座 人間総合科学研究群

寄附者 | 日本メドトロニック(株)、ディーブイエックス(株)

土浦市地域医療教育学講座 人間総合科学研究群

寄附者 | 茨城県土浦市

トヨタ自動車・デンソーパワーエレクトロニクス

寄附講座 数理物質科学研究群

寄附者 | トヨタ自動車(株) / (株) デンソー

富士電機パワーエレクトロニクス

寄附講座 数理物質科学研究群

寄附者 | 富士電機(株)

総合周産期医学講座 人間総合科学研究群

寄附者 | つくば市

自然保護寄附講座 人間総合科学研究群 生命環境科学研究群

寄附者 | 岡本和子氏(個人)

JA茨城県厚生連寄附講座

脳卒中予防・治療学 人間総合科学研究群

寄附者 | 茨城県厚生農業協同組合連合会

JA茨城県厚生連寄附講座

先進消化器外科学 人間総合科学研究群

寄附者 | 茨城県厚生農業協同組合連合会

JA茨城県厚生連寄附講座

運動器再生医療学 人間総合科学研究群

寄附者 | 茨城県厚生農業協同組合連合会 / バイオメット・ジャパン(同)

糸状菌相互応答講座 生命環境科学研究群

寄附者 | (公財) 発酵研究所

アグブテッド体育・スポーツ学寄附講座 人間総合科学研究群

寄附者 | 茨城県

寄附講座 地域総合診療医学 人間総合科学研究群

寄附者 | 北茨城市民病院 / 笠間市 / 利根町 / 大子町 / (医) 若竹会
つくばセントラル病院 / (医) 大森病院

寄附講座 成人難病地域医療学 人間総合科学研究群

寄附者 | 茨城県 / 茨城県厚生農業協同組合連合会

鹿島行方地域寄附講座 運動器医療学 人間総合科学研究群

寄附者 | (一社) MAP / 茨城県行方市

寄附研究部門 (令和2年5月1日現在)

重症心不全・不整脈総合治療寄附研究部門 附属病院

寄附者 | アボットメディカルジャパン(株)

茨城県災害・地域精神医学寄附研究部門 附属病院

寄附者 | 茨城県

応用分子イメージング学寄附研究部門 附属病院

寄附者 | (医) 豊智会

神栖地域医療システム学寄附研究部門 附属病院

寄附者 | 神栖市

茨城県西部地域医療システム学寄附研究部門 附属病院

寄附者 | 筑西市

古河・板東地域医療システム学研究部門 附属病院

寄附者 | 茨城県厚生農業協同組合連合会

茨城県・日立市女性のヘルスケア

地域医療学寄附研究部門 医学医療系

寄附者 | 茨城県 / 日立市

茨城県総合地域医療システム学研究部門 附属病院

寄附者 | 茨城県

県南地域医療システム学研究部門 附属病院

寄附者 | (公社) 取手市医師会

循環器先進治療寄附研究部門 附属病院

寄附者 | 日本ライフライン(株) / (株) アステック / ボストン・サイエンティフィックジャパン(株) / 日本光電工業(株) / 東レ(株) / バイオトロンクジャパン(株) / アボットバスキュラー ジャパン(株)



特色ある学生支援

つくばアクションプロジェクト (T-ACT)

学生の「やってみたい！」を応援する学生支援がT-ACTです。学生が自由に企画する「アクション」、教職員の活動に参加する「プラン」、地域団体と一緒に活動する「ボランティア」の3つの舞台で活躍できます。また、学生が安心して活動できるように、専任スタッフがいつでも相談に乗っています。これらを通じて、さまざまな体験を重ねながら学生生活を充実させ、社会実践力を身につけられるよう支援をしています。



障害学生支援・LGBT等の学生支援

開学以来多くの障害のある学生が学んでおり、積極的に支援しています。現在、視覚障害、聴覚障害、運動障害、内部障害、発達障害等の障害のある130名以上の学生が、学群と大学院のさまざまな分野に在籍しています。また、LGBT等の学生に関しては対応ガイドラインを定め、ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター内に相談窓口を設置するなど、支援体制を整えています。

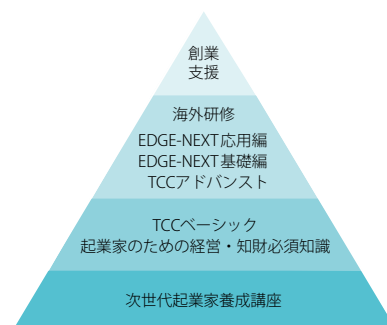


起業家育成とベンチャー支援

階層起業家教育

起業マインドを醸成する学群1年生向けの「次世代起業家養成講座」、実践的起業家教育「筑波クリエイティブキャンブ(TCC)ベーシック」(入門編)および「TCCアドバンスト」(発展編)、さらに「起業家のための経営・知財必須知識」など、起業ス

キルに応じた授業を開講しています。また、研究成果を起業に結び付ける「EDGE-NEXTプログラム(文科省次世代アントレプレナー育成事業)」を、学内外の研究者向けに展開しています。



ベンチャー起業相談室

講座以外にもワンストップで起業に関する相談を、常時、受け付けています。起業に興味があるという段階から、起業に向けての活動に至るまで、幅広くベンチャー育成のための支援を行っています。



国際交流

留学生の受入れ

110を超える国・地域から2500名を超える留学生を受け入れています。英語による授業科目のみで学位が取得できる、魅力ある学位プログラムを提供する一方、日本での学修研究活動、日常生活、就職など、さまざまなレベル、技能、目的に合わせたきめ細かな日本語教育も行っています。

学生の海外留学

グローバルな社会で活躍できる人材の育成を目指し、学生の海外留学を支援しています。海外の多くの大学・研究機関と学生交流協定を締結しており、これに基づいた交換留学も盛んです。その他、春季・夏季休業期間を利用した短期間の語学研修プログラムや海外研修プログラムを実施しています。これらのプログラムに参加する学生に対する、大学独自の奨学金制度なども設けています。

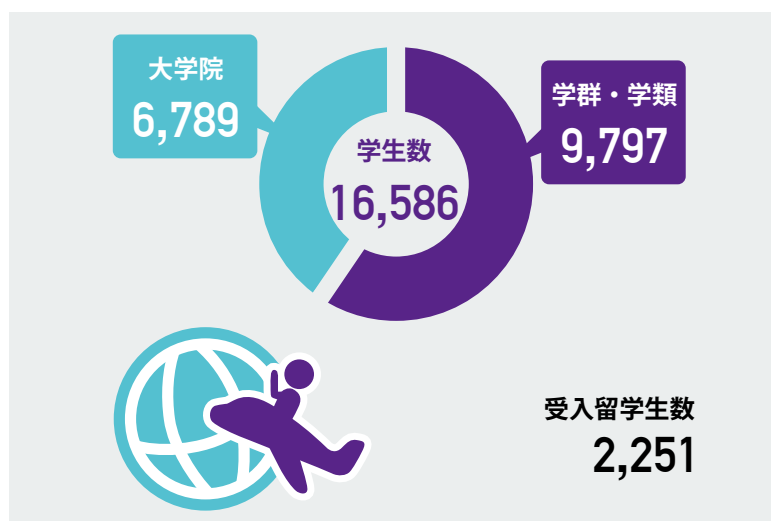


国際交流協定締結機関

69の国・地域の大学や研究機関と Campus-in-Campus10 協定、大学間交流 159協定、部局間交流 221協定、合計390協定を結んでいます。(令和2年5月1日現在)

国際性の日常化

学生自身が自然と国際性を身につけられるよう、日本人学生と留学生とが日常的に交流を行う多くの場と機会を提供しています。その一つである「スチューデント・コモンズ」では、国際交流イベントや海外留学に関する説明会、留学を経験した学生による個別相談などを行っています。コミュニティスペースとして、異文化体験やいろいろな国・地域からの留学生との交流にも利用できます。



(令和2年5月1日現在)

国際的な学術交流によって、学術研究水準の向上を図り、国際的視野を持つ人材の養成を目指しています。
そのために、外国の大学との交流協定に

基づく学生や教員の海外派遣、単位互換制度、外国人教員や研究者の受け入れなどを行っています。また、外国人留学生の受け入れも積極的に進めています。

海外オフィス

国際交流事業を展開する一環として、教育研究活動の国際連携を推進するために、海外オフィスを設置しています。現在、12の国・地域にオフィスがあり、それぞれのミッションを定めて、留学生の確保、派遣学生の支援、関係大学・機関等との学術交流活動の促進・支援、同窓会ネットワークの構築等、さまざまな活動を実施しています。



トランスボーダー大学への取り組み

スーパーグローバル大学創成支援プログラム

本学は、平成26年度文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」タイプA(トップ型)に採択されました。この事業の核となる Campus-in-Campus および科目ジュークボックスシステムなどの取り組みを通して、「開かれた大学」から「我が国の高等教育と社会を世界に開き、率先して世界の未来を拓く大学」への飛躍を目指します。

Campus-in-Campus (CiC)

本学と世界中のパートナー大学とでキャンパス機能を相互に共有し、学生や教職員・研究者が自由に教育研究交流できる環境を実現する構想がCiCです。この構想およびそれを基盤とした海外大学との授業の共有(科目ジュークボックスシステム)、卓越した業績を誇る教育研究ユニットの共有などにより、学生・教職員のモビリティを高め、国境や機関の壁を越えた武者修行を促進するとともに、世界中の資源を積極的に活用した教育研究を実現します。

CiC パートナー大学

- ボルドー大学【フランス】
- 国立台湾大学【台湾】
- サンパウロ大学【ブラジル】
- マレーシア工科大学【マレーシア】
- グルノーブルアルプ大学【フランス】
- オハイオ州立大学【アメリカ】
- ボーフム大学【ドイツ】
- アルファラビ・カザフ国立大学【カザフスタン】
- カリフォルニア大学アーバイン校(リサーチパートナー)【アメリカ】
- ユトレヒト大学(リサーチパートナー)【オランダ】



研究組織・センター等

国際統合睡眠医科学研究機構

先端研究センター群

- ・ 計算科学研究センター
- ・ 生存ダイナミクス研究センター
- ・ つくば機能植物イノベーション研究センター
- ・ 下田臨海実験センター
- ・ プラズマ研究センター
- ・ 地中海・北アフリカ研究センター
- ・ サイバニクス研究センター
- ・ アイソトープ環境動態研究センター
- ・ 人工知能科学センター
- ・ 陽子線医学利用研究センター
- ・ 山岳科学センター
- ・ 微生物サステナビリティ研究センター
- ・ ヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究センター
- ・ トランスボーダー医学研究センター
- ・ 宇宙史研究センター
- ・ エネルギー物質科学研究センター

研究支援センター群

- ・ 研究基盤総合センター
- ・ 学術情報メディアセンター

教育等センター群

- ・ グローバルコミュニケーション教育センター
- ・ 体育センター
- ・ アドミッションセンター
- ・ 保健管理センター

国際科学イノベーション研究組織

高細精医療イノベーション研究コア

共同利用・共同研究組織

つくば臨床医学研究開発機構

開発研究センター

- ・ 藻類バイオマス・エネルギーシステム開発研究センター
- ・ プレシジョン・メディスン開発研究センター
- ・ 未来社会工学開発研究センター
- ・ スポーツイノベーション開発研究センター
- ・ ヘルスサービス開発研究センター
- ・ テーラーメイドQOLプログラム開発研究センター
- ・ 働く人への心理支援開発研究センター
- ・ イノベティブ計測技術開発研究センター
- ・ 革新的創薬開発研究センター
- ・ デジタルネイチャー開発研究センター
- ・ 健幸イノベーション開発研究センター

競技スポーツ統括組織

- ・ アスレチックデパートメント

理療科教員養成施設



附属学校

先導的教育拠点、教師教育拠点、国際教育拠点という3つの拠点構想を掲げ、大学と連携し、日本のみならず世界の初等中等教育および特別支援教育をリードしています。

| 学校名 | 特色 |
|---------------------------|--|
| 附属小学校 (文京区) | <ul style="list-style-type: none"> ・教科担任制(32人クラス編成)の導入 ・学習公開・研究発表会(年2回、延べ8千名参加)での研究成果の発信 |
| 附属中学校 (文京区) | <ul style="list-style-type: none"> ・「言語活動」「体験学習」を重視した教科指導 ・生徒が一から作り上げる学校行事(富浦臨海学校発表会) |
| 附属高等学校 (文京区) | <ul style="list-style-type: none"> ・レベルの高い教科教育、バランスのとれた教育課程 ・生徒中心の学校行事・学年行事 |
| 附属駒場中・高等学校 (世田谷区) | <ul style="list-style-type: none"> ・唯一の国立中高一貫男子校、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)校(平成14年～、4期目) ・学校行事で創造性とリーダーシップの育成(音楽祭、体育祭、文化祭、水田稲作) |
| 附属坂戸高等学校 (埼玉県坂戸市) | <ul style="list-style-type: none"> ・総合学科高校のバイオニア(平成6年～)、ユネスコスクール加盟、国際バカロレア認定校(平成29年～)、WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)拠点校(令和元年～) ・生徒自らが科目を選択するオリジナル時間割、1年生全員が菜園体験 |
| 附属視覚特別支援学校 (文京区) | <ul style="list-style-type: none"> ・唯一の国立視覚特別支援学校 ・乳幼児期から職業課程まで世界の教育者が集う学びの場 |
| 附属聴覚特別支援学校 (千葉県市川市) | <ul style="list-style-type: none"> ・唯一の国立聴覚特別支援学校 ・確かな日本語の獲得、ICTや自作の教材教具の活用 |
| 附属大塚特別支援学校 (文京区) | <ul style="list-style-type: none"> ・知的障害教育における先導的教育研究 ・「学習内容表」と「教育課程(幼・小・中・高)」を作成し全国に発信 |
| 附属桐が丘特別支援学校 (板橋区) | <ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由教育における先導的教育研究 ・個別の指導計画と自立活動の指導、ICTや自作の教材教具の活用 |
| 附属久里浜特別支援学校 (神奈川県横須賀市) | <ul style="list-style-type: none"> ・知的障害を伴う自閉症児に関する先導的教育研究 ・自閉症教育実践研究協議会の開催 |



附属図書館

附属図書館は、中央図書館と4つの専門図書館(体育・芸術図書館、医学図書館、図書館情報学図書館、大塚図書館)で構成され、本学の学術情報基盤を支えており、学内外から年間100万名近くが活用しています。

図書・雑誌に加え、電子ジャーナル・ブック、データベースを計画的に整備し、膨大な資料群と最新学術情報へのアクセスを可能にしています。こうした館内資料を利用した授業やグループ学習、芸術作品や研究成果の発表に活用できる空間も用意されています。また、所蔵する貴重資料の特別展・企画展を開催しています。

レファレンスサービスや講習会に加え、中央図書館ではラーニング・アドバイザー(大学院生)による学習サポー

トやセミナー、ボランティアによる案内も提供しています。



附属病院

附属病院は、大学病院に課せられた「診療・教育・研究」の3つの役割を果たすべく、高度医療の提供、優れた医療人の育成と、次世代医療の開発に取り組んでいます。

本院は、茨城県内唯一の特定機能病院として、県全域から高度医療を必要とする患者の受け入れを行っており、令和2年度からは県内唯一の高度救命救急センターとして、24時間体制で重症患者に対応しています。

また、県内のすべての医療圏に地域医療教育センター・ステーションを設置し、地域医療の現場と連携しながら、高い専門性とホスピタリティマインドを有した医療人の育成にも注力しています。

さらに、平成27年に「T-CReDO(つくば臨床医学研究開発機構)」を設立し、本学にとどまらず、筑波研究学園都市を中心とする産官学の研究機関にある

さまざまな医療関係シーズを革新的医薬品・医療機器・再生医療等製品の創出につなげるため、治験や臨床研究の

実施の場を提供し、国際的な臨床開発拠点としての発展を目指しています。



本学の特色

本学は、ノーベル賞受賞者とスポーツの国際大会におけるメダリストをとともに輩出するユニークな大学です。これまでに、3名がノーベル賞を受賞し、オリンピック・パラリンピックでは、現役生と卒業生・修了生を合わせ100名余りが選手として出場しています。

ノーベル賞受賞者



ノーベル物理学賞 1965

朝永振一郎
東京教育大学元学長、名誉教授

「量子電気力学、とくに超多時間理論およびくりこみ理論の展開」



ノーベル物理学賞 1973

江崎玲於奈
本学元学長、名誉教授

「半導体内及び超伝導体内におけるトンネル現象に関する実験的発見」



ノーベル化学賞 2000

白川英樹
本学名誉教授

「導電性ポリマーの発見と開発」

本学の伝統とオリンピック・パラリンピック

講道館柔道の創設者として高名な嘉納治五郎(1860-1938)は、本学のルーツとなる東京高等師範学校の校長を23年にわたって務めました。また、初のアジア出身の国際オリンピック委員会委員となり、わが国のオリンピック・ムーブメントの発展に尽くすとともに、日本が正式に選手団を派遣した1912年ストックホルム大会で、2名の選手を率い団長として参加しました。同大会には、当時、東京高等師範学校の学生だった金栗四三がマラソンに出場しています。以来、本学および11の附属学校はオリンピック、パラリンピアンを数多く輩出し、たくさんのメダルを獲得しています。

オリンピック・パラリンピック競技大会に関連して、国際オリンピック委員会公認のオリンピック研究センターである「オリンピック教育プラットフォーム(Centre for Olympic Research and Education; CORE)」、スポーツ庁が推進する“Sport for Tomorrow (SFT)”事業の一環として「つくば国際スポーツアカデミー(TIAS)」、「オリンピック・パラリンピックムーブメントと全国展開事業」、「ハイパフォーマンスサポート事業」、「スポーツ研究イノベーション拠点形成プロジェクト(SRIP)」を展開するとともに、東北大学、東京大学、日本医科大学と連携して設立した「日本アンチ・ドーピング研究コンソーシアム」の一員として、アンチ・ドーピング研究および理解教育の普及に貢献しています。

総獲得メダル数*

| | オリンピック | パラリンピック |
|---|--------|---------|
| 金 | 5 個 | 13 個 |
| 銀 | 7 個 | 23 個 |
| 銅 | 14 個 | 19 個 |

※昭和48(1973)年以降に本学(附属学校含む)の学生(卒業生・修了生を含む)、教職員が獲得した数

建物配置図

筑波キャンパスは、南北に約5キロ、東西に約1キロに及び約258ヘクタールの敷地を有しています。また、東京キャンパス文京校舎には、附属学校教育局と社会人対象の大学院等を設置しています。

アクセシ

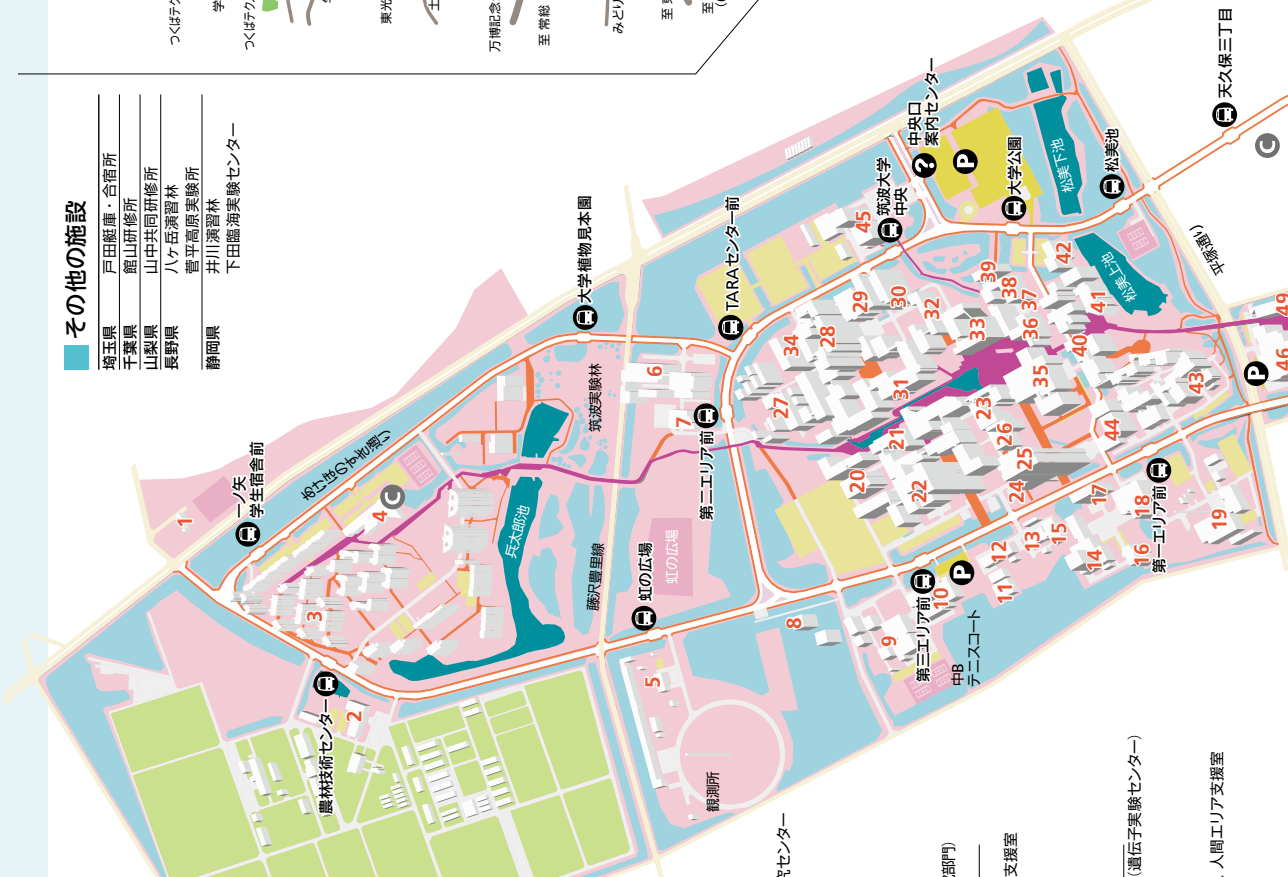


筑波キャンパス

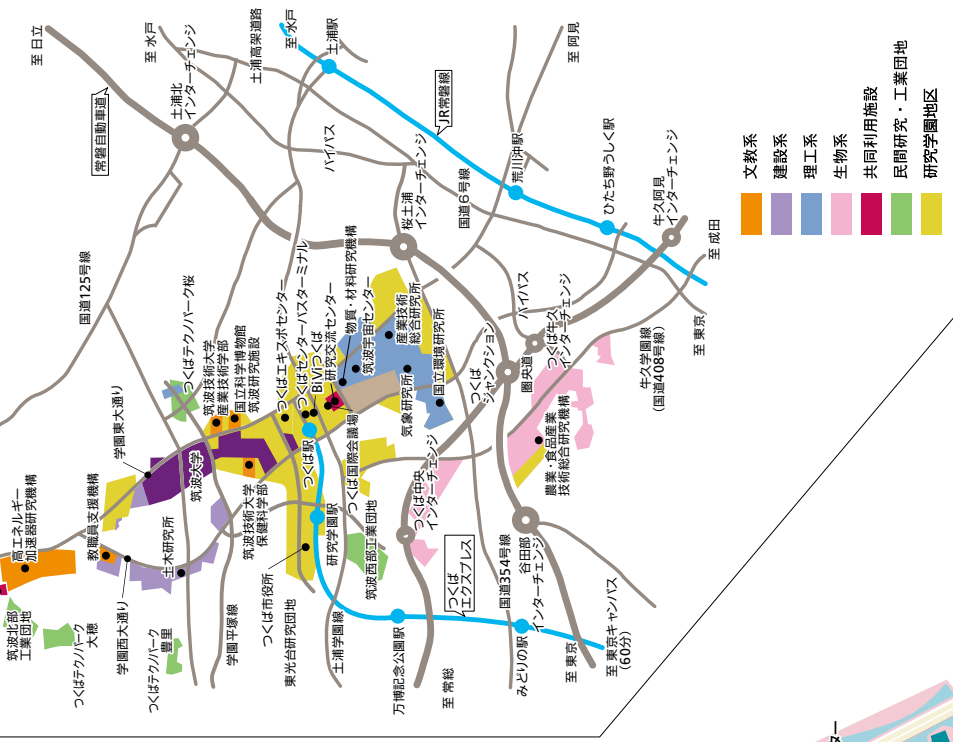
| エリア名 | 施設名称 |
|-------------|--------------------------------------|
| 東エリア | 1 観音・第2観音 |
| 農林技術(農場)エリア | 2 つくば機械植物イノベーション研究センター(農場) |
| 一の矢宿舎 | 3 一の矢学生宿舎 |
| 東エリア | 4 一の矢生活センター |
| 実験センター | 5 アドバンスド環境研究センター(環境動植物学部門) |
| 東エリア | 6 生存ダイナミクス研究センター |
| 東エリア | 7 産学リエゾン共同研究センター |
| 東エリア | 8 ハイオ・マテリアル植物生産研究棟 |
| 東エリア | 9 フラズマ研究センター |
| 東エリア | 10 環状ハイオマス・エネルギーシステム開発研究センター |
| 東エリア | 11 エンハバースタジオ |
| 東エリア | 12 研究基盤総合センター(工作部門) |
| 東エリア | 13 研究基盤総合センター(低温部門) |
| 東エリア | 14 研究基盤総合センター(応用加速器部門) |
| 東エリア | 15 共同研究棟C |
| 東エリア | 16 研究基盤総合センター(分析部門) |
| 東エリア | 17 プロジェクト研究棟 |
| 東エリア | 18 アイノトーブ環境知能研究センター(放射線研究部門) |
| 東エリア | 19 筑波大学アーカイブズ、中央機織室 |
| 東エリア | 20 第3体育館 |
| 東エリア | 21 3A~3D・G・3K・3L棟/システム情報研究センター |
| 東エリア | 22 工学系学系棟 |
| 東エリア | 23 理科系棟 |
| 東エリア | 24 共同研究棟D |
| 東エリア | 25 総合研究棟B |
| 東エリア | 26 サイバニクス研究棟 |
| 東エリア | 27 つくば機械植物イノベーション研究センター(遺伝子実験センター) |
| 東エリア | 28 生物・農林学系棟 |
| 東エリア | 29 第1体育館 |
| 東エリア | 30 総合研究棟A |
| 東エリア | 31 2A~2E・2G・2H棟/生命環境研究センター、人間研究・工業団地 |
| 東エリア | 32 文科系修工棟 |
| 東エリア | 33 人間系学系棟 |
| 東エリア | 34 環境防災研究棟、山岳科学センター |

その他の施設

| | |
|-----|------------|
| 埼玉県 | 戸田観音・合宿所 |
| 千葉県 | 鏡山研修所 |
| 山梨県 | 山中共同研修所 |
| 長野県 | ハク岳演習林 |
| 群馬県 | 曹平高原実験所 |
| 静岡県 | 井川演習林 |
| 静岡県 | 下田臨海実験センター |



筑波研究学園都市



| 色 | 施設系 |
|------|-----------|
| オレンジ | 文教系 |
| 紫 | 建設系 |
| 青 | 理工系 |
| 緑 | 生物系 |
| 赤 | 共同利用施設 |
| 黄 | 民間研究・工業団地 |
| 黒 | 研究学園地区 |

| エリア名 | 施設名称 |
|------|-----------------|
| 東エリア | 78 医学地区中央機織室 |
| 東エリア | 79 臨臨医学研究棟 |
| 東エリア | 80 4B棟、4C棟、4D棟 |
| 東エリア | 81 生命科学動物資源センター |

- 35 中央図書館
- 36 人文社会学系棟
- 37 共同利用棟A
- 38 共同利用棟B
- 39 共同利用棟C
- 40 スチューデントプラザ
- 41 1A~1H棟/人文社会学系エリア支援室、数理物質工学エリア支援室、スチューデント・コモンズ、総合学域群アカデミックサポートセンター
- 42 文化系サークル館
- 43 自然科学系棟
- 44 計算科学研究センター

- 45 本部棟、本部アネックス棟
- 46 講堂
- 47 学生会館、筑波大学ギャラリー、筑波大学アトスベース
- 48 総合交流会館
- 49 学生会館宿泊施設
- 50 学術情報メディアセンター
- 51 グローバルコミュニケーションセンター
- 52 保健管理センター
- 53 国際講義棟

- 54 芸術学系棟
- 55 5C棟/体育芸術工学エリア支援室
- 56 共同研究棟B
- 57 体育科学系棟
- 58 体育科学系棟
- 59 6A、6B棟
- 60 芸術学系工務棟
- 61 アート&デザイン実習室
- 62 体育・芸術図書館
- 63 中央体育館
- 64 T-Dome
- 65 スポーツ流体工学実験棟

- 66 体芸食堂
- 67 グローバルスポーツイノベーション棟
- 68 体育センター、体育系サークル館
- 69 屋内プール
- 70 武道館
- 71 球技体育館
- 72 開学記念館
- 73 総合研究棟D
- 74 弓道場
- 75 体育合宿所
- 76 クラフハウス
- 77 課外活動練習施設

- 82 4E棟
- 83 共同利用棟B
- 84 医学系R1研究棟
- 85 医学系系系棟
- 86 附属病院
- 87 4A棟/医学医療工学エリア支援室
- 88 医学科学棟
- 89 医学図書館、臨床講義室
- 90 医学食堂
- 91 第2体育館
- 92 隣子線医学利用研究センター
- 93 健康医学イノベーション棟
- 94 つくば臨床検査教育・研究センター
- 95 次世代分子イメージングAIC画像検査センター

- 96 平砂生活センター
- 97 平砂学生宿舎
- 98 クローナルワイレージ
- 99 レジデント宿泊施設
- 100 追越生活センター、ゆりのき保育所
- 101 追越学生宿舎
- 102 外国人教師等宿泊施設
- 103 7A棟
- 104 春日学生宿舎、春日1号棟、春日2号棟
- 105 高細精医薬イノベーション棟
- 106 春日講堂
- 107 7B棟、7C棟/図書館情報工学エリア支援室
- 108 図書館情報学図書館
- 109 7D棟
- 110 第4体育館
- 111 春日弓道場
- 112 情報メディアユニオン
- 113 春日学生宿舎、春日3号棟
- 114 春日福利厚生棟
- 115 クローナルハウス

- 116 大塚図書館
- 116 社会人大学院等支援室
- 116 大学研究センター
- 116 附属学校教育局
- 116 東京キャンパス事務部
- 116 理療科教員養成施設
- 116 広報室東京分室

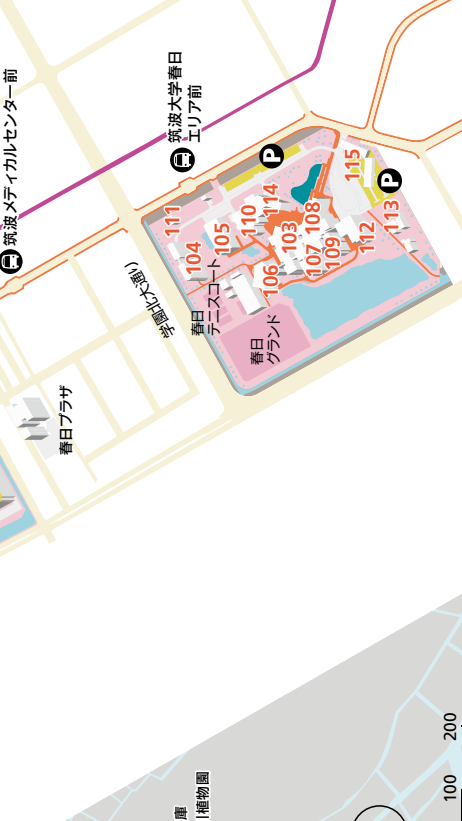
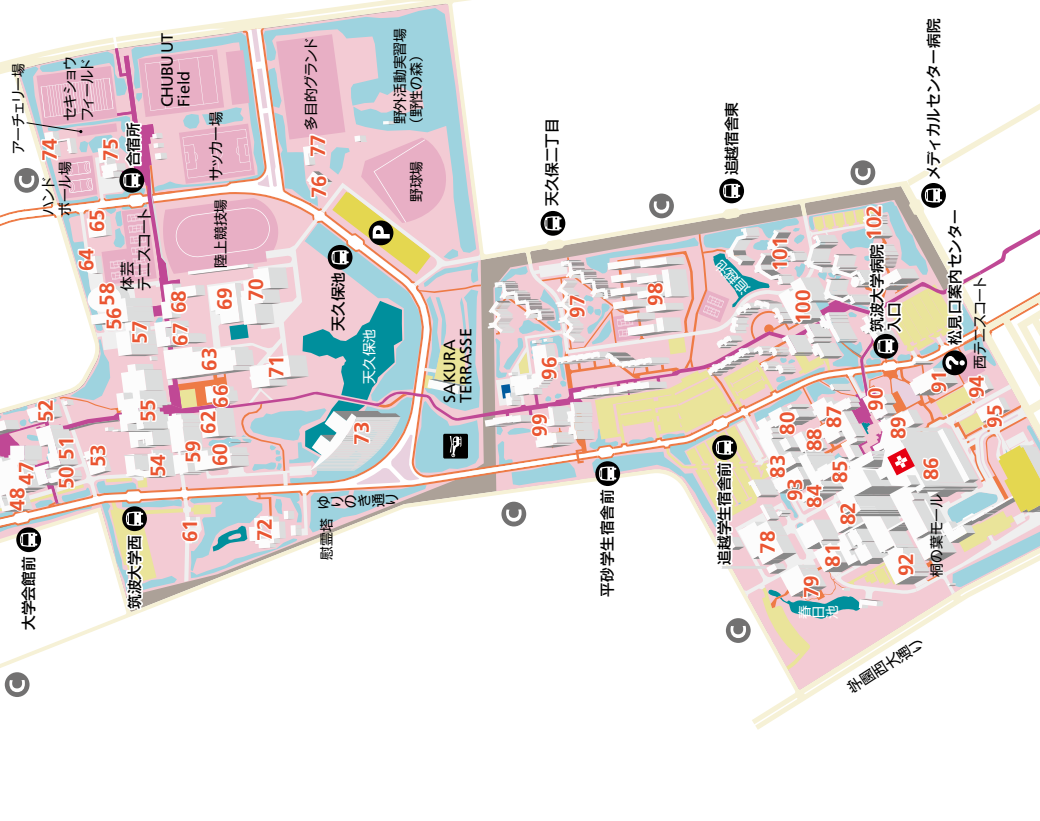
- 附属小学校
- 附属中学校、附属高等学校、附属駒場中・高等学校、附属視覚特別支援学校、附属大塚特別支援学校、附属稲が丘特別支援学校、附属坂戸高等学校
- 千葉県 附属聴覚特別支援学校
- 神奈川県 附属久里浜特別支援学校

- 施設名称
- 文京校舎

- 建物
- ヘテストリアンデッキ
- 歩道
- 運動施設
- 農場

- 路線バス停留所
- 案内センター
- 駐車場
- ヘリポート
- 病院ヘリポート
- コンビニエンス・ストア

- 0 100 300 500
- N



IMAGINE THE FUTURE.

想像しよう、未来を。
地球の、環境の、
社会の、未来を。
想像できなければ、
創造はできない。
この地球（ほし）の未来は、
失敗できない。
創造しよう、未来を。
共に生き、持続できる、
開かれた未来を。
その扉をあける、
挑戦者になろう。

筑波大学概要 令和2-3年度
編集・発行：筑波大学広報室
住所：〒305-8577
茨城県つくば市天王台 1-1-1

制作：広報室

www.tsukuba.ac.jp

